



農作業メモ

小麦の今後の管理・4つの対策

平成29年産の小麦は、昨年11月の天候不順により、は種作業が遅れたほ場が見受けられました。これからの麦踏みや追肥等の栽培管理が小麦の収量・品質に大きく影響してきます。

必ず次の対策を実施しましょう。

対策1 排水溝と排水口の設置

茎立ち期や登熟期の湿害は、収量に大きく影響を及ぼします。まだ排水用の溝を作っていないほ場では、溝あげロータリー等を使って、ほ場の周囲及びほ場内に5〜10m間隔に溝を掘り、排水口につなぐようにしましょう。

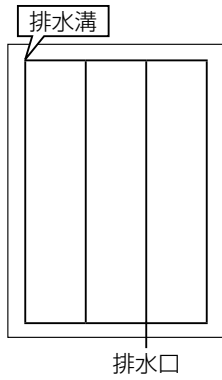


図 排水対策の例 (30a)

対策2 追肥の実施

適正な追肥を行うことは収量・品質

を確保するために必要不可欠です。特に「さとのそら」は、生育中期から後期にかけて肥料を多く必要とする品種のため、必ず適量を追肥しましょう。

追肥の方法は、①普通肥料を2回に分けて追肥する方法と、②緩効性肥料を利用し、追肥を1回に省力する方法の2通りがあります。

①2回に分けて追肥する方法

- 【実施時期】
- 1回目：3月上旬
 - 2回目：3月下旬〜4月上旬
- 【追肥量】：表1

表1 2回追肥の1回当たり施肥量

肥料銘柄例	施用量 (kg/10a)
NK化成C6号	12×2回
硫安	10×2回
けやき化成	14×2回
みのりNK535	14×2回

②1回で追肥する方法

【実施時期】：3月上旬

【追肥量】：表2

表2 1回追肥の施肥量

肥料銘柄例	施用量 (kg/10a)
さとのそら 追肥専用 (石灰窒素 4.5%)	20

対策3 麦踏みの実施

麦踏みは、根張りを良くし、耐倒伏性の向上や凍霜害防止等に効果があります。

麦の2葉期を過ぎたら、茎立ち前(2月下旬)までに、2週間程度の間隔をあけ、最低でも3回行いましょう。

対策4 雑草防除

雨天が続いたことで、は種後の除草剤の散布時期を逃してしまったりは、ほ場ごとの優占雑草や小麦の生育ステージを早めに確認し、生育期処理剤を使用して遅れずに雑草を防除しましょう(表3)。

表3 小麦の生育時の除草剤処理

農薬名	使用量 /10a	使用時期	使用回数	適用雑草
アクチノール乳剤	100〜200ml	穂ばらみ期まで (雑草生育初期)	2回以内	1年生広葉雑草
エコパートフロアブル	50〜100ml	小麦節間伸長開始期まで (広葉雑草2〜4葉期、ヤエムグラ2〜6節期) 但し収穫45日前まで	2回以内	1年生広葉雑草
ハーモニ-75DF水和剤	5〜10g	は種後〜節間伸長前 (但し、スズメノテッポウ5葉期まで)	1回	1年生広葉雑草 スズメノテッポウ
バサグラン液剤	100〜200ml	生育期 (雑草の3〜6葉期) 但し収穫45日前まで	1回	1年生雑草 (イネ科を除く)

【記載農薬は平成28年11月22日現在の登録状況に基づいています。】
※農薬を使用する際には、必ず使用農薬のラベルを確認しましょう。